



令和3年度

教育行政執行方針



教育長 佐々木 昌子

令和3年第1回鹿部町議会定例会の開会にあたり、教育委員会所管に関する執行方針について申し上げます。

今日の社会は、人口減少や少子高齢化の深刻な課題を抱え、一方、人工知能やビッグデータ、IoTなどの先端技術の急速な高度化により、社会の変化は複雑です。また、昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、学校の臨時休業措置や感染拡大防止対策など、これまでにならぬ経験をし、今なお終息の見えない厳しい状況が続いています。

令和3年度は、人口減少や少子高齢化の深刻な課題を抱え、一方、人工知能やビッグデータ、IoTなどの先端技術の急速な高度化により、社会の変化は複雑です。また、昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、学校の臨時休業措置や感染拡大防止対策など、これまでにならぬ経験をし、今なお終息の見えない厳しい状況が続いています。

新しい人材へと成長していくことができるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組むとともに、町民一人一人が生涯にわたり主体的に学び続けられるよう生涯学習社会の構築に努めていかなければならないと考えています。

学校教育の推進

はじめに、学校教育の推進について申し上げます。

小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から完全実施される新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指す三つの柱である「生きていく知識・技能の習得」、「未知の状況にも

対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学びを生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」の育成を求められています。

社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0時代の到来や新型コロナウイルスの感染拡大で先行き不透明など、急激に変化する時代の中で、鹿部町子どもたちが自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできるよう、その資質・能力を育成することに努めます。

また、プログラミング教育についても令和2年度から必修化されたことから、小学5、6年生を対象としたプログラミング講座を実施し、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」である論理的に考えていく力を育成するよう努めます。

小学校においては、令和2年度から3、4年生で外国語活動が新設され、5、6年生が「外国語科」として

の教科となったことから、A・L・Tをより効果的に活用するとともに、中学校の英語教諭の乗り入れ授業を実施していますが、令和3年度においても継続し小学校の外国語教育の充実に努めます。

また、プログラミング教育についても令和2年度から必修化されたことから、小学5、6年生を対象としたプログラミング講座を実施し、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」である論理的に考えていく力を育成するよう努めます。

中学校においては、生徒の生活環境調査や実態分析により「主体性の欠如」が大きな課題であることから、令和2年度に「自らを律し 自分を高める 生徒